
anotherStory ─ AngelBeats! # Episode00PastsDays

InfinityPhoenix

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I Another Story Angel Beats! #E
pisode 00 Past Days

【Nコード】

N2868M

【作者名】

Infinity Phoenix

【あらすじ】

この話はテレビAngel Beats!のスピノフ作品です。
みんなが卒業した後に音無と新たな仲間と共に新たな物語が始まります。

ー 注意ー

麻枝先生みたいなネ申作品ではないのであまり期待しないで下さい。

#Episode00PastDays（前書き）

自分はド素人なので書き方が変だったり麻枝先生に及ぶ訳がありません。

先に言つときます。作品的にはクソです。 w w w

それでもいいなら読んで下さい。

感想とかあったらお願いします。

#Episode00PastDays

俺は、、

ふとまた目を覚ました。

あのあと奏が消えてからずっと目を閉じていた、、

「そうか、、みんな卒業できたんだっとな、、俺は、、一人ぼっちって事か、、また最初からって事か、、でもあの時奏にまた日向やゆりみたいな奴が迷い混んで来るかもしれないからって言ったんだっただけ、、」

奏から貰ったありがとうの一言で俺はやはりこの世界に残る事を改めて決意したのだった、、。

I Another Story

Angel Beats!

#Episode00

Past Days

初めて出会ったのはゆりだった。明るい性格で死んだ世界戦線のリーダー。彼女も愛する事を知り、消えて行った。

親友は日向だった。俺が死んだ世界戦線に入った時に初めての友達だった。ユイが消えて行った時に決めた決意を新たに秘めて消えて行った。

奏は、、言うまでもなく俺の残された心臓で生きながらえた少女

だった。天使という名目で始めは俺らと敵対していた、、彼女は
ありがとうと言いつつ残り消えて行った、、

俺はやはり奏の事が、、
奏、、

そんな事を考えてるうちに何日がたっただろう、、
俺は一人、戦線のブリーフィングルームにいた。
今やゆり、日向、を始めとする仲間も誰もいない。
俺一人だ。

ただみんなと過ごした日々が染み付いていて掛け替えのない場所な
のはたしかだった。

「またゆりや日向みたいな奴が来るかもしれないと言えど、、
俺はどうしたらいいのか、、みんないない中で、、」

ふとカセットを付ける。

My Song. Crow Song.

ギター音が部屋に響く。

ガルデモ、、岩沢さんとユイがボーカルのバンド。二人の夢は叶
ったのだ。改めて思った。

「俺にやること、、か、、ここには出来る事なら来ない方がい
いに決まってる。

だけど以前俺が迷い混ん時には助けてくれた仲間がいた。友達がい
た。いつまでもこうしてはいられない。

今度は俺の番だ、、ゆり、、日向、、みんな、、そして

奏、、俺はもう一仕事してからそっちに行く事にするよ、、」

、、。

その時だった。

鳴り響く銃声。

一発。二発。三発。

いやもつとだったかもしれない。

俺は変な予感の裏腹にごく僅かな期待が胸を過ぎる。

「みんな卒業したハズなのにどうして、、また誰かが迷い込んだ、？」

紅い月が夜空に輝く。

俺は校舎の東側、校庭に走る。

誰もいな、、くなかった。

ゆりとは正反対の性格っぽい、けなげな少女が奮えながら拳銃を握っている。

「、、？女の子、、？戦ってる、、？じゃあ何と、、？」

俺は事態を把握できなかった。

ただ、また誰かが迷い込んだ事は事実であった。

「おい！！お前、大丈夫、、」「俺は駆け寄ろうとしたその瞬間だった。

俺は彼女に憚られた。

「！？」

あの子が、、二人、、！？

何故！？

以前は奏の能力によりこのような事態に陥った事はあった。しかし今回は違う。

あの子と姿形、全く同じ子が俺を止めに憚ったのだ。

「あの子を止めないで、！！」

俺の前でけなげながらも何かひっかかるようなのある一言を俺にぶつけた。

「女の子があんな状況なのに助けない訳ないだろ！」俺は拳銃を持った彼女をもう一人の彼女をかわして手を掴もうとした。

その時だつた。

もう一人の彼女が突然俺の前に現れた。

「えッ!？」

「じゅめんなさい、」

俺は遠くに聞こえた声の中に何処か懐かしい感じがしたのと同時に意識を失ってしまった、

○
／
／
／
／

俺は再び目を覚ました、土砂降りの校庭で泥だらけの制服に身体を駆け巡る痛み。

「痛てえッ、ッ、ッ！」

脇腹から血が出ている。

俺は討たれたようだった。

「？」

俺に話しかけてくる人がいる。あの子だ。傘を差していて俺の隣に立っていた。

「俺はたしか、君に討たれて、」

「そう、。もう一人の私が撃ったのね。」

俺は黙ってしまう。

何かやはり裏がありげな口調で俺に話す。

「これは私自身の問題だから他人であるあなたにはわからないわ。」

「それならそれでいいんだ。だけどこの場所に君がいるって事は、

」

言いかけると同時彼女の口が開く。

「それならすべて知っているわ。私は死んだのよ。あの時に、、
だから今、ここにいるの。わかってるわ。」

何故ここまで彼女は知っているのかわからない。

しかし、俺には何か淋しげな雰囲気を感じとれた。

「そう、、か、、。ところで名前、、いや、生きていた時の
記憶とかはあるのか?」「あるようなないような。途中で途切れて
しまってるの。私の時間と未来は、、

だから名前とかすべての記憶とかそういうのも曖昧。ちなみに私は
サキ。名字は、、思い出せない。でもここに来た理由はわかって
いるわ。」

それなら話しは早い。

この子を卒業させるのが俺の役目だと思った。

「その夢というかさ、、その望みを俺がかなえてあげ、、」
すると違った声がいくつか聞こえた。

「えッ、、!また誰かが!?」そこには男女合わせて6〜10人
くらいの集団がいた。

俺とは違った制服を着ている。NPCとは全く違う。やはり俺の予
感は当たった。しかしSSSとは違った集団だと言うことはたしか
だった。

#	P	E
Episodes	Past Days	END
00		

#Episode00PastDays（後書き）

こんな作品を読んでくれてありがとうございます？
やはり麻枝先生には敵わないです。
次回も作るのよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2868m/>

—AnotherStory— AngelBeats! # Episode00PastsDays

2010年10月13日21時29分発行